

第32回全日本レディスバドミントン選手権大会（7月24日～26日）が鹿児島アリーナ（鹿児島県）で開催され、岐阜県代表としてソアークラブ（柳沢、多田、山本、藤村、三輪、中野、藤井）監督高橋よね子、で出場しました。

決勝戦になって、目の前の得点板の「20」の数字が「21」に変わった瞬間涙があふれ出ました。選手と共に夢に見てきた、悲願の優勝。全国制覇。長いラリーの末に最後のシャトルがネットを超えてコートに落ちた時、汗と涙で選手達と抱き合い、嬉し涙が止まりませんでした。悲しみの涙はこらえられても、感動の涙はこらえられないと言う生まれて初めての体験でした。

ソアークラブは全国大会に長年出場してきました。私が監督に就任したのは6年前の岡山大会からで、次いで仙台（宮城）、神戸（兵庫）、札幌（北海道）、小田原（神奈川）、そして今回の鹿児島です。岡山大会での「ベスト8」が、優勝をめざすきっかけになりました。しかしすべてが上手くいかず、今年こそは各自が悔いの無い試合をしようと決めて、試合にのぞみました。

クラブ対抗に出場できるメンバーは（経験者を除く）多くは結婚して子育てをしながら、または子育てが終わってからバドミントンを始め、長い年月バドミントンに夢中になって、そして家族の応援があってこそ今回の優勝でした。

又、ソアークラブの民谷部長は以前からクラブのメンバーに県外の試合に出場して経験を積むようにすすめられてきました。そのような部長の方針も今回の優勝につながったと思っています。

優勝を振り返ってみて、先輩達の努力と選手達の優勝をめざすファイトで、この素晴らしい感動を経験する事が出来ました。又、長年応援して下さいました方々に感謝の気持ちで一杯です。

本当に有り難うございました。

2014年9月 ソアークラブ監督 高橋よね子

7月に鹿児島県で開催された第32回全日本レディスバドミントン選手権大会（クラブ対抗の部）で初優勝した「ソアークラブ」の選手らが県庁を訪れ、古田肇知事に喜びを語った。

大会は、バドミントンを愛好する女性らの親睦を深めようと開催。都道府県代表の51チームが予選リーグと決勝トーナメントで覇

を競った。

ソアークラブは県内の30～50代の主婦ら約40人でつくり、山県市の体育館を拠点に練習を重ねている。

県庁訪問 全日本レディスバドミントン ソアークラブ、V報告



バドミントンの全国大会で優勝し、古田肇知事に喜びの報告をするソアークラブの選手ら＝県庁

県庁には選手ら7人が訪れ、監督兼選手の高橋よね子さん（80）が「6回目の全国大会で、悔いのない戦いをしよう」と試合に臨んだ。実力を出し切れたことが優勝につながったと思う」と報告。古田知事は「快挙を成し遂げられた。バドミントンを県内の若い人たちにも広げてほしい」と激励した。（井上吉博）